



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 早川 清志 島崎 洋路  
 題字

『いかに出すかが腕の見せ所』  
 通年コース第十・十一回開催報告「間伐・集材」

傾斜のある奥山でも、よほどの大径木でない限り、チェンソーといくつかの道具があれば、巧拙の差はあれ、我々素人でも間伐は出来ると思います。でも難しい材料はやはり大変です。



キャタトラでの集材、合図ははっきりと

はやはり「出し」、すなわち集材です。間伐の現場である山林から、トラックの入って来られる林道脇の土場まで材を出す作業ですが、この集材はやはり大変です。

市場で建築用として流通している素材(丸太)は3mまたは4mがほとんどです。切った材はその長さにより揃えて山から出したい。そして、流通に乗る太さはいくと、一般的には柱材以上のもので、それは末口の径が14cm以上のものになります。そして、当然切ったばかりの材は水分をたくさん含んでいて重く、比重が1近くあります。柱が一本しかとれない14cm、3mのヒノキ材でも重さは50kg近くあり、肩に担いで土場まで持ってくるのは、できれば金太郎さんにも任せたい作業です。ましてや末口が30〜40cmもあれば重さはひと玉(丸太の数え方は玉)で数百kgにもなり、こうなるともうちょっとやそつとでは太刀打ちできません。数十年前までは牛馬が活躍し、あるいは丸太を樋状に並べて人力で滑り落とす修羅(しゅら)、木製の轢に丸太を積み、木の軌道上を引き下ろす木馬(きんま)や、川を利用した筏流しなど、自然の力もうまく利用しての集材でした。

ジン付きの機械は欠かせません。「ひつぱりだこ」はエンジンとウィンチだけで傾斜のある林地でも移動ができ、材を引き寄せたり、積載したりして集材する車両系の林業機械が全盛です。そして近くにトラックの入れる林道がない場合は、架線を張って集材機で出してくることもあります。さらに、木曾檜や吉野杉など、単価の非常に高い銘木の出しには、ヘリコプターなども利用されるようです。人間の重さの何倍もあるものを大量に、効率よく出すとすれば、おのずと動作が速く、パワーのある機材が求められるわけですが、それをいかに安全に使いこなすか、ということは永遠の大命題であることには変わりありません。

集材時 材の回転半径に入らない、チェンソーの片手横持ちの禁止などの注意。薄曇りだが、雨の心配はなさそう。少し遅れるという、高玉さんを駐車場待ち、現れたので即出発。



ポールで吊りあげ荷台へ乗せる

8時30分 山小屋に集合。日程説明、班分け、講師挨拶。集材に關しての説明、

9月23日(金) 間伐・集材

通年コース 第十・十一回

12時 班ごとに昼食。そろそろきのこのシーズンなので、尾根筋を少し歩いてみたが、食用キノコはあるか、毒キノコさえほとんど生えていない。

13時 午後の部開始。坂野班、集材を始めるべくキャタトラを林道から下ろそうとしたが、思ったより傾斜がきつく、倒立して立木に寄りかかってしまった。まずチルホー

9月24日(土)

8時30分 山小屋に集合。日程説明、講師挨拶。現場に向かう。今日はほとんど雲もなく、秋晴れ、快晴

9時30分 現場着。今日は早川班が午前中、川島班が午後のキャタトラ集材となる。キャタトラは丸太の脇まで行って拾い集める方法と、一ヶ所に置いて、ウィンチで丸太を引き寄せる集材の方法があり、

15時30分 本日の予定終了。小屋まで戻り解散。

15時30分 本日の予定終了。小屋まで戻り解散。

時々、どちらが効率が良いかを判断して作業を進めることになる。

12時 昼食。

13時 午後の部開始。川島班の間伐材は全体的に細く、人力でキャタトラに積載できる程度で、集材ほとんど完了。他の班は間伐材の半分も集材できなかった。

15時40分 本日の予定終了。今日は現場で解散。

参加者/赤羽さんご夫妻、上沼さん、金井さん、関口さん、長尾(謙)さん、鍋島さん、瀬田さん、両角さん、山田さん、湯沢さん、水野さん、高玉さん、園田さん、長坂さん

講師/早川講師  
スタッフ/川島、坂野

次回以降の予定

専門コース 第三回開催

10月6・7日(木・金)

今回は二日間の開催になります。傾斜地で、出来るだけ簡単な道具での伐倒練習をします。現場は駒ヶ根市菅の台の予定。なお、開催希望の日を申告していただき、最終日程を決めたいと思います。8時30分山小屋に集合。

通年コース第十二・十三回

10月14・15日(金・土)

見学・枝うち

間伐材は切られたあとどこへ行くのか。どんな経路で、どんな値段で売られていくのだろうか。そして何に利用されるのだろうか。

14日(金)の午前中は有賀建具店さん、午後は伊那木材センターの見学を予定しています。建具店親方の恵一さんは、県の「森世紀工房」マスタラーに認定された職人さんです。素晴らしい家具や建具を見せていただくとともに、親方の木に対する思いや技に触れてください。

午後の伊那木材センターは県森林組合連合会の木材市場です。10月の競売日は5日(水)と26日(水)なのであまりたくさん材はないかと思いますが、良材の探寸方法や、市況のことなど興味深いお話が聞けるのではないかと思います。15日(土)はぶり縄で木のぼりと保科先生ご指導の枝打ちです。麻のロープを忘れずに。

集中コース秋の部

11月10日、12日(木・土)

込み具合の判断と、何%間伐すればよいのか、林を調べて考えましょう。そして、チェーンソーを使つての伐倒練習。KOA森林塾のエキスの三日間です。電卓、筆記用具が必要です。

定員に十分余裕がありますので、是非奮ってご応募ください。

紙上でレビュー

その キャタトラの仕様

集材に使ったキャタピラトラクターの仕様を見てみましょう。

- 『やまびこ号』BEV 914
  - ・ロビン空冷エンジン(ガolin)29cc、タンク容量6L
  - ・最大作業能力1000kg
  - ・最大出力9PS(馬力)
  - ・機械重量750kg
  - ・全長、全幅207×127cm
  - ・走行速度 時速1.4km(1速)、時速6.9km(4速)
  - ・登はん能力 25度(空車)
  - ・最小回転半径 1.95m
  - ・クローラ ゴム製
  - ・ポールつり上げ能力300kg
  - ・ワイヤ巻き取り長さ80m(ワイヤ 8mm)
  - ・定価 約150万円
- エンジンは軽トラの半分くらいの大ささで、値段が普通乗用車のカローラクラスです。やはり林業機械は量産されていないので割高感はあるかもしれません。
- 機械重量と寸法を見ると、軽トラには乗りません。でもこれを軽トラのあたりを倒して載せしてしまう猛者がいるんですね。良い子は決してマネしないよう



ゴムクローラなので林床を傷めにくい

に。

空荷で25度の登はん能力がありますが、舗装された直線の坂で、の話です。林内で荷を積むと15度くらいが精いっぱい、傾斜地での方向変換は極力避けるべきでしょう。また坂道走行には、ギア止めを忘れずに掛けておきましょう。

直引で100kgの能力がありますが、ポール経由で材を挽く場合は300kgまでとなります。ポールを使って横向きで引くと結構簡単に横倒しとなりますのでアンカーを取るなど、注意が必要

いま、都道府県や企業の助成金など、探せば数十万円〜百万円くらい出してくれるところもありますので、林業のNPOやボランティアで「出し」を考えている皆

さんは、これくらいの能力をもった機会が一台あると便利かもしれません。作業の幅が広がると思います。

林内作業車『やまびこ号』は福岡県の農林業機械製造メーカーの(株)筑水キヤニコムの製品です。

蛇足ですが、この会社は自社製品に『ブッシュカッター・ジョージ』とか、『草刈機まさお』とか、『伝導よしみ』とか、「こつこつ」のって、どうよ? という名前を付けています。興味のある方はホームページをのぞいてみてください。

リレー通信

夢をいだいて山へ行く

相知 理恵

このリレー通信のバトンをもらって、山への気持ちを考えてのために、振り返ってみると、人って変わるものだなあ...としみじみと思いがした。思い出話と今の夢を綴

ります。

私は愛知県瀬戸市に住む二十五歳です。今年四月から豊田森林組合の職員になりました。

子どもの頃の私の夢は「お嫁さん」でした。中学生になると、「結婚して専業主婦になって旦那の帰りを待つ生活」と夢が現実味をおび、まずは花のOLになって、お昼休みにカーディガンを着てパタパタとランチにいくような綺麗な女性になる。そして三年勤めて寿退社、「バブル時代に会社勤めをした母から聞いた話をそのまま真似するつもりでした。

そんな私が山仕事に興味を持ったのは五年ほど前のことだと思えます。もししたら商業高校で最後の年、尾張の端っこに住む私が名古屋市の会社ではなく、豊田市の会社を選んだときから、すでに田舎志向は始まっていたのかも知れません。

大企業といわれる会社に入社し、きらびやかなOL生活が始まるかと思つたら、入社二日目に始まった教育場所の建物の古さに夢が砕かれました。ニュースで見るとなびピカの外観は一部の姿で、その裏には簡素な実験棟や、無駄を省いた運営があり、自然とそれに慣れてい



ものだと  
思っていた  
ので、自分  
が山に関わ  
るようにな  
るとは思っ  
ていません  
でした。  
そのう  
ち、有機野  
菜や自給自  
足、田舎暮  
らしに興味

きました。もともと もった  
いない気質を持っていたら  
しく、そのうち誰よりも無駄  
に厳しくなっていたと思っ  
ます。  
仕事は楽しかった。残業も  
毎月の限度までやって、我な  
がら勉強熱心になっていた  
と思います。お給料でパレエ  
や英会話を習い、海外旅行に  
行き、アフター5と休日を謳  
歌しました。ただ、労使交渉  
で「賃金上げる」と言うのは  
苦手で、「自分の働きぶりな  
ら、これで十分なのに。」と  
思っていました。

を持ち、野生動物を守る運動  
に参加したり、菜食を極めよ  
うとしました。インターネット  
トで出会った話が合う仲間  
内では楽しかったけれど、日  
常で自分の周りについてい  
る家族や友人、職場の人と分  
かりあえない。とにかく、人  
間は生きていくことが罪だ  
と思っ、できるだけ環境に  
負荷をかけない生活をした  
い。罪のない他の生き物を殺  
生したくない。という考えだ  
けが大きくなった私に、大量  
生産をする産産を担うこと  
は苦痛になり、仕事に熱が入  
らなくなっていました。  
毎日、家から会社までヒー  
ルの靴でアスファルトの上  
だけを歩いて行けることは  
不自然なんじゃないかと思  
い始めた頃、初めて付き合っ  
た同志の人に別れを告げら  
れ、仕事にも私生活にも頑張  
る目標がなくなりました。生ま  
れて初めて絶望感を感じ、何か

をしていないと涙がでてく  
るような状態で、本を読みあ  
さり、とにかく熱中できるこ  
とを探して行った場所が「森  
の仕事ガイダンス」や木造住  
宅の工務店でした。  
工務店は、木造建築の勉強  
もせずに入れるほど、甘い世  
界ではなかったけれど、何ッ  
た数軒の工務店さんは、親切  
に対応してくれ、山の資料を  
くださいました。  
「森の仕事ガイダンス」で  
は女性でも山で作業をする  
人が全国にいること、素人  
でもやる気があれば山仕事  
ができることを教わり、運よ  
く豊田市で測量と山の調査  
の仕事(団地化推進員)をや  
らせてもらえることになり  
ました。  
それから二年間、スパイク  
足袋をはいて山を歩きま  
わって、田舎に住む人たちの  
温かさに触れて、夏の暑さと  
虫との戦い、冬の耐えられな  
い寒さと燃料のありがたさ、  
そして車がないと山仕事が  
何もできないことを実感し  
ました。  
また、私が耐えられずに逃  
げてきた自動車産産の収益  
がないと、豊田市の林業は成  
り立たないことも知りまし  
た。人間社会を憎む思想から  
脱出し、社会を受け入れられ  
るようになってきたかなと  
思います。  
今年四月からは豊田森林

組合の職員として、とよた森  
林学校の事務局をしていま  
す。事務局として自信をつけ  
るために元祖のKOA森林  
塾を受講させていただきま  
した。まだまだ、勉強不足で  
技術も体力もなく、本当に山  
で自分が役に立っているの  
か、と不安になる日もありま  
すが、温かい仲間を支えられ  
て、精一杯仕事に励む毎日  
です。

来春には、限界集落といわ  
れる地域に嫁ぐことになり  
ました。畑やお米づくり、漬  
物・お豆腐づくり、機織り、  
そして薪ストーブなど、山  
事以外にもやりたいことだ  
らけでどうしようかなと思  
いますが、きつとここなら何  
でもできる気がします。  
人工林を手入れする労力  
にはなれなくても、その地域  
に住んで子どもを育て、木こ  
りを支えて、街の人に山の魅  
力を伝えていく。そんな暮ら  
しをしていきたいです。

皆さん、こんにちは。森林  
塾の山小屋から車で二十分  
余り北東に位置する上伊那  
郡箕輪町の萱野高原の麓に  
住んでいます。山や木に興味  
を持ち始めたのはいつの頃  
からか?改めて思い返して  
みました。  
生まれ育った愛知県三河  
地方の海辺の町は山など一  
切見えない平らな地形で、木  
といえは近くの海辺の大き  
な神社の松林くらいでした。  
それでも小学生の頃、松の斜  
めの幹から横に伸びた大き  
な枝にロープを吊るし、隣の  
松まで飛び移るターザン遊  
びなど楽しかった思い出が  
甦ってきます。夏休みには里  
山の風情がいくらか残って  
いた母の実家に何日か泊ま  
りに行き、ひとつ違いの従弟  
とカプトムシを採りに行っ  
たりもしました。夜明け前に  
起きて、事前に目星を付けて  
おいた樹液の出ている木を  
いくつか回ると二、三匹の収  
穫があり、それを集めて家に  
帰り、友だちに自慢などして  
いました。

と山登りやスキーに勤しみ  
ました。夏休みの一週間フル  
に北アルプスを縦走するこ  
となど、体力的に二十代だか  
らできたのだと思います。特  
に好きだったのは、梅雨入り  
前の残雪の多い時期のアル  
プスの峰々でした。この季節  
に燕岳に登りアルプス銀座  
の白銀の峰々を眺めたとき  
の感動は忘れません。白馬岳  
の雪渓に登り白馬三山を縦  
走し雪渓の真只中の鍾温泉  
を堪能したのも山開き直後  
のこの季節でした。しかし、  
その後結婚し子供ができ、仕  
事も責任が大きくなるに従  
い忙しくなり、また自分自身  
の体重も年々順調に増えた  
結果として山登りからは遠  
ざかってしまいました。

# リレー通信

## 山と木の思い出

禰宜田六己

やがて社会人として就職  
先を選択する時期になると、  
学生時代に集団登山で初め  
て登った木曾御岳の素晴ら  
しい景観に憧れていたこと  
もあり、山が身近にある長野  
県の会社に決めました。独身  
時代は仕事の傍ら、同じよう  
に山に憧れて入社した仲間

でも住まい自体はアパート  
で周りに緑が乏しくとも、少  
し車を走らせれば豊かな森  
林があり、いつもそれに癒さ  
れた記憶が心に強く残って  
いたこともあり。その森  
林は杉や桧の画一的なもの  
ではなく、春は芽吹き緑や  
可愛い花が咲き競い、夏は涼  
しげな木陰をつくり、秋には



美しい紅葉、黄葉が見られ、冬は遅い幹の連なりが際立つ、そんな広葉樹の森でした。ドイツやオーストリア、スイスなどは広い森が見事に整備され、人々の生活の中心で潤いを与えてくれる不可欠な存在になっていることも目の当たりにしました。

日本は森林資源が豊富でありながらそれを活かすことに課題があると言われています。森林塾には山や木に愛着を感じ、森林資源を如何に守り活かしていくかに関心のある方が集まって来られ、それを広く実行されている方もおられ、良い刺激になっています。私自身はそんな大きな課題に正面から向かっていくことは考えていませんが、幸い身近に多くの山や林があり、それを少しも活用することには少しは力を出すことができますし、興味も持っています。森林塾で学ぶことはその第一歩と思っていますが、今後今以上に自由にできる時間が増え、身の周りの森林資源を具体的に活かす方法をいろいろ勉強していきたいと考えています。

森の中にいると何とも言えない穏やかでやさしい気持ちになり、静かなエネルギーをもらえるのは、古来より森と人間が共

生してきた長い時間から来る遺伝子によるものだと思います。人々が日常の生活の中に森や木と過ごす時間を取り戻すことができれば豊かな時間が生まれると信じています。森の中で汗を流すことを楽しみ、自然の変化と木々の成長を楽しみながら、多くの人が癒しの得られるそうした森づくりに少しでも役立てればと思っています。

樹のコラム

エノキ 榎

離弁花 ニレ科 エノキ属 落葉高木

本州から沖縄まで広く分布する木で高さ二十m、直径は1mほどになります。さすがは、ニレ科。枝を大きく広げる堂々とした木です。でも残念ながらこれほどの大きなエノキにはまだ出会えていません。

エノキは丘陵から山地の日当たりのよい、適度な湿度のあるところに生えますが、発芽力が強く、鳥散布などで人里近くや、田んぼのあぜ道、路地などでも良く見かけます。エノキあるかなあと探してみると、けっこうあります。私の職場の横の道路の分離帯の植え込みなどにたくさん生えていて、そこには

大きな櫨があり、よくムクドリがたくさんやってきます。鳥散布なので、運び主はおそらくこのムクドリで、散布されて育ったんだと思います。どこかにエノキのマザーツリーがあるのかもしれない。

葉は基部から顕著な三脈があり、特徴的です。側脈は鋸歯の先端には達せず、成木の葉は、三分の一あたりからちいさな波状の鈍鋸歯があります。中には全縁のものもあるようです。葉の基部は広くさび形で左右不相称になり、葉の表面には光沢があり、見慣れてしまえばすぐにエノキだとわかります。

花は雌雄同株で、四月〜五月に葉の展開と同時に開花します。雄花は新しくのびた枝の下部に集まってつき、両性花は上部の葉の腋につきます。果実は九月で熟すと赤褐色になり、食べると甘味があり、干し柿にしているそうです。



です。

昔は街道の一里塚や、村境、橋のたもとに良く植えられたそうで、各地にいわれのある大木があるようです。またこの木の葉は国蝶オオムラサキの幼虫の餌になるので、オオムラサキ保護のため、この木を植林している地域もあるそうです。蝶の好きなあなた、この木を庭に植えれば、もしかしたら、自宅でおオムラサキの乱舞が見られるかも。

このエノキのほかに、北海道から九州に分布し、山地の渓谷に生えるエゾエノキがあり、この木の葉は葉の三分の二あたりから鋸歯があることで、これがエノキとの区別点になります。この二種のほかに、コバノチョウセンエノキ、クワノハエノキ(日本固有種)、ウラジロエノキ(常緑)がありますが、いずれも近畿地方以西の暖かい地方に生育しています。

私が初めてエノキを知ったのはもう十四年くらいまえのことで、以前住んでいたアパートの部屋の窓からすぐ手が届く所にこの木が生えていました。高さは八mくらいあったと思います。夏は涼しい木陰を作ってくれて、何の木なのかなあと眺めていました。秋になって実が付いていることに気づき、それから調べてみる

気になって本屋に行き、エノキだと知りました。そういえば、「葉でわかる樹木」を購入したのはこの時だったのを思い出しました。

考えてみると、このエノキが私に樹の名前を覚えさせるきっかけの樹だったのかもと、今このコラムを書きながら思っています。知らない植物の名前が少しずつわかって見分けられるようになってくると、うれしくてどこへ行くにも本を持ってでかけて行きました。それは今も変わらない私の必需品であり、楽しみになっています。

おわりに

今回は枝うちの前に、ぶり縄で木登り、の練習がありました。木登りには股関節の柔軟さが必須です。

今から半月間、階段は二段ずつ上る。スクワット毎日十回五セット。片足立ちで膝を胸に抱き左右十秒づつ毎日三セット。これを忘れずに、が宿題です。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp ki-hayakawa@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062(開催日) URL http://www.koanet.co.jp